

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教187年5月1日
発行責任者 福西 努
発行住所 甲賀町上野461番地9

5月号 N0286



第2回目のご案内

プログラム

期日 6月1日(土)

場所 天理教甲龍分教会

参加御供 300円

参加カードを持参願います。

※ 椅子席は限りがあります
ので必要な方はお持ちく
ださいよう願います。
申し上げます。

9:30 受付開始

10:00 開会挨拶
おつとめ
諭達拝読
教会本部からのビデオ
メッセージ

10:30 講話「おつとめ」
講師 増野正俊 本部員

11:30 閉会挨拶
親神様・教祖・祖霊様 拝礼

朝の信仰読本

中山慶純著

青年の心を救った婦人の声かけ

修養科では週に数回、午後にはひのきしんの時間が設けられています。クラス単位で行う「定時ひのきしん」と、同じ人が同じ場所で行う「長期ひのきしん」とがあります。

ある修養科生が、お墓地の長期ひのきしんに当たりました。彼は当初、「同じひのきしんなら、ほかのクラスや、ほかの期の人たちとふれ合える交通誘導が良かった。それに引き換え、お墓地は誰もいない。出直した人とのふれ合いなんて、冗談じゃない」と周囲に漏らしていたそうです。

広いお墓地のひのきしんに割り当てられたのは、彼を含めて四人だけです。教室のあるおやさとかたから一キロほど歩かなければならないうえ、夏場だったので、蚊は多いわ、蜂にも追いかけられるわで、「えらい場所に当たった」と、不足たらたらでした。

そんなあるとき、一人のおばあさんがお墓地へ参拝にやって来ました。彼がいつものように、やる気もなく箒を

動かしていると、そのおばあさんから「あんた、ご苦労さんやねえ」と声をかけられました。そして「このお墓地は、誰でもひのきしんできるわけじゃないんやで。教祖が、あんたをここに連れてきてくださったんや。だから、勇んで勤めてくださいよ。頑張つてね」と励ましてくれたのだそうです。

このひとりで、彼の心はコロツと変わりました。「そうか、僕は教祖に選ばれたのか。『このひのきしんを頼むよ』と任されたのか」と、スツと得心がいき、以後、勇んで勤めることができたと話してくれました。

もし彼がひのきしんをしている時間帯に、そのおばあさんが参拝に来ず、声をかけられなかったら、彼の心は最後まで勇むことはなかったでしょう。さらに、修養科を修了して故郷に戻ってから、「大変な所でひのきしんをさせられた」「修養科なんて行くもんじゃないよ」と周囲に吹聴したかもしれませぬ。そう考えると、おばあさんのひと言の声かけは、彼の心をたすけただけでなく、彼の故郷の、彼につながる多くの人たちのおたすけにもつながっ

ている、と言えるのではないのでしょうか。

私たちは会話をするとき、あまり深く考えずに言葉を出しますね。けれども、その何げないひと言が、相手を勇ませることもあれば、不足させてしまうこともあるということを、よく心に治めておきたいものです。

「声は肥」と教えていただきます。ひと言の声かけが、人さまの心の勇みとなれば、勇み心に親神様が働いてくださり、その方の運命は大きく変わるのです。人さまに心を配り、温かい声かけに努めるとともに、こちらも「ありがとう」「ご苦労さま」と声をかけていただけるよう、何ごとも心を尽くして勤めさせていただきます。

みんなの教理勉強

だめの教えって素晴らしい

飯田照明

だめ（究極）の教えの何とありがたいことか！

はじめて、人間を苦しめる悪しきこと、不幸、不運の本当の原因は何かを教えられた

今までは、不幸・災難などの原因は、神の怒りとか天罰とか、悪魔や悪霊のせいにしてきた。

仏教には自業自得という教えがあるが、たくさんの悪業を重ねた、人の力ではどうにもならない運命的なものであり、諦めるしかないと教えている。

教祖はそれに対して、すべての悪しきことの本当の原因は、人間に許された心の自由を、親神さまの思召に反するような使い方をしたことが原因となっていると教えられた。

悪しきことは、誤った心の遣い方によって、心にほこりを積み、心がゆがみ、汚れていることを、親神さまがおしらせくださっている姿である。

そのことを自覚し、反省し、心の汚れを清めれば、お救いくださるのである。

自分の心遣いにすべての責任があり、そのことを知り、反省し、心の浄化に

努めていくと、ご守護があり、救いていただけるというありがたい教えである。自力（人間の努力）と他力（神様のご守護）の二つが相まって、悪しきことからの救いが実現する。

「あしきを払う」努力はいつも根気よく行うことが必要であるが、いづれ、いつかは必ずご守護をいただけるという希望を持つて生きるよう、お励ましてくださっているのである。

人間の自主的で主体的な努力を一番尊重してくださる。

はじめて、人間の自然な生き方とは何かを教えられた

体内にはその人が暮らしている、土地、地域の日一日二十四時間に合わせた二十五時間の体内時計がある。

このリズムに合わせて生きると健康になれる。そのリズムに合わない生き方をしていっていると、健康をそこねることになる。

お道では、朝のおつとめは朝日の出る時間、夕づとめは、日が沈む時間に行われる。朝と夕方の時間のリズムに

合わせて、日々のおつとめを勤める教えは他にない。

大自然のリズムに合わせて生きる生き方の大切さの教えである。

お道では、朝起きの大切さを教え、自然のリズムを正しく守る生き方をすすめる。

インターネットで海外と取引する人や時差ぼけに悩む国際線パイロットや、深夜や二十四時間営業に従事する人々は、体内時計がいつも狂う生活をしている。現代文明に生きる人々の宿命かもしれない。

しかしそれは、自然のリズムに逆らった生き方であり、必ず何かの形の健康障害を生む。出来るかぎり、自然のリズムに合った生き方をするよう、またそれが出来るように努力していかねばならない。

親神さまがお許しくださいている百十五歳まで、病まず弱らず健康に生きるためには、天然自然の理にそった生き方が必要である。



教祖誕生祭 4月18日 教祖226回目の誕生日を寿ぐ

存命の教祖の226回目のご誕生祭は18日、中山大亮様を祭主に本部神殿、教祖殿で執り行われた。

祭典に引き続き、「喜びの大合唱」が本部中庭で催され、教祖を慕う道の子供たちの明るい歌声が、春の神苑に響いた。



婦人会第106回総会を開催



婦人会第106回総会は、教祖誕生祭の翌4月19日、本部中庭を主会場に開催された。朝から澄みきった青空が広がったこの日の親里。総会には、国の内外から約2万1千400人の会員が参集した。

琵琶湖外来魚駆除ひのきしん

滋賀教区青年会主催

6月9日（日曜日）9時半から

※詳細は来月発表です。（最寄りの教会にお尋ねください）

5月の支部にをいがけデー

5月28日午前9時～

拠点教会 神山分教会 信楽町多羅尾2441番地
